

## 若年性関節リウマチの臨床的研究

班員：鹿児島大学医学部小児科教授	寺	脇	保
研究協力者 信州大学医学部小児科教授	赤	羽	太 郎
横浜市立大学医学部小児科講師	植	地	正 文
福岡大学医学部小児科教授	小	田	禎 一
宮崎医科大学小児科教授	早	川	国 男
日本大学医学部小児科講師	藤	川	敏
杏林大学医学部小児科助教授	渡	辺	言 夫

### 研究目的

若年性関節リウマチ Juvenile Rheumatoid Arthritis (以下 JRA と略) は、小児科領域における難病の1つであり、その発病機転も明らかでない。

われわれ班員及び研究協力者は多年に亘って JRA の基礎的研究並びに臨床的研究に従事し、殊に治療法の改善に努力してきた。

昭和52年度本研究班が組織されたので3年間を一応の目標として特に本症の臨床的研究に重点をおき、先ず本

邦における JRA の実態を明らかにし、診断基準を確立し、更に治療法の改善と統一見解をはかることを目的としている。なお余力があれば JRA の発病機転にも力を致したいことを申し合わせた。

そして初年度である本年は次の目標をたてた。

- (1) 全国実態調査
- (2) 病像の検討
- (3) 治療法の検討
- (4) 発病機転の研究

以下、班員、研究協力者の成績を報告する。

## 若年性関節リウマチの全国実態調査

### (第一報)

鹿児島大学医学部小児科 寺 脇 保 銚之原 昌

### I. はじめに

本年度より「若年性関節リウマチの臨床的研究」班が組織されたので、まず本症の患者の実態を把握する目的で、全国的規模の疫学調査を行った。

### II. 対象および方法

対象は、昭和52年1月1日より12月末日までに診療した患児を対象とした。

調査病院は、厚生省児童家庭局、昭和49年発行の小児慢性疾患実態調査に掲載されている主要病院と全国大学

病院の計1,363で調査された。

第一次調査として表1のような調査用紙と葉書1枚に患者氏名、性、生年月日の記入欄を印刷して同封し、調査病院の院長または小児科部長宛に郵送した。

若年性関節リウマチ (JRA) の診断基準は、本邦で確定したものはないので、今後の本研究班の一つの課題とすることになり、今回の調査では、表1のような参考症状を記して調査することになった。また、アレルギー性亜敗血症 (SSA) は、JRA の一型という考え方もあり別項に対象をもうけて調査した。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

#### 研究目的

若年性関節リウマチ Juvenile Rheumatoid Arthritis(以下 JRA と略)は、小児科領域における難病の 1 つであり、その発病機転も明らかでない。

われわれ班員及び研究協力者は多年に亘って JRA の基礎的研究並びに臨床的研究に従事し、殊に治療法の改善に努力してきた。